アジア地域で活躍する企業関係者のための最新リスク情報

JSS Weekly Asia Report

株式会社ジェイ・エス・エス　ウィークリー・アジアレポート
2022 年 8 月 18 日号（通巻第 411 号）　毎週木曜日発行

今週のトピック

【ミャンマー】

☆ カイン州で反軍政派が警察に奇襲攻撃、署長ら殺害

南東部カイン州を拠点にする小数民族武装組織（EAO）「カレン民族同盟（KNU）」の8月15日（月）付け声明によると、KNUの軍事部門「カレン民族解放軍（KNLA）」と反軍事政権市民レジスタンス組織「国民防衛隊（PDF）」の合同部隊は同日、同州コーカレイ郡コーカレイ地区にある同郡警察本部と同地区警察署を奇襲攻撃し、さらに市街地の銀行支店を警備する治安部隊に対しても攻撃を加えた。

同声明は、一連の攻撃により警察少佐1人を含む警察官・兵士12人が死亡した、としているが、合同部隊側の死傷者数には言及していない。また、合同部隊は攻撃時に各種銃器6丁と実包多数を鹵獲したほか、コーカレイ地区裁判所の職員数人を拘禁下に置いているという。

攻撃に参加したPDFの「白竜部隊（南部管区）」は、今回の戦闘で死亡したとされる国軍兵士の遺体から銃と実包を回収する様子を映した動画をSNS上で公開している。

【JSSコメント】

① ミャンマー問題専門のオンラインメディア「イラワディ」は、警察から漏洩した内部報告書には、今回の襲撃で同地区警察署のミン・タン署長（警察少佐）ら警察官6人と兵士1人の計7人が死亡、別の警察官1人と国軍系民兵3人の計4人が負傷したとの記載があったと報じている。

② 同記事によると、PDFとEAOによる国軍・警察施設やその要員をターゲットにした攻撃は、全国の各州・管区域で連日のように発生している。一方、軍事政権側はそうした事例を基本的に公表しておらず、裏付け情報を入手し難い状況である。

各国リスクレポート

【中国】

☆ 浙江省建徳市のマンションに押込み強盗、住人夫妻死傷

8月9日（火）午前11時頃、浙江省建徳市新安江街道のマンションの住人から「助けを求める声が聞こえる」との通報が同市公安局に入った。

局員が同マンションに臨場したところ、7階の窓の外のキャットウォークで男が立ち往生しているのが見えた。局員らは同マンションを封鎖して消防車を呼び、男に向けて放水して室内に戻らせた上で逮捕した。

捜査当局によると、この男（39歳）は強盗罪で10年間服役した前歴があり、同マンションにも強盗目的で侵入して住戸を一軒一軒ノックし、ドアが開いた住戸に押し入ったが、住人の夫妻に騒がれたためナイフで刺した。その騒ぎを聞いて他の住人が集まってきたため、窓から外に出て逃げようとしたという。

刺された夫妻は病院に搬送されたが、身重だった妻は死亡し、夫も重傷である。

【JSSコメント】

① 自宅等への見知らぬ訪問者に対しては、ドアを施錠したままドア越しに応対するのが鉄則であり、そのことを日頃から家族や使用人等にも徹底させる必要がある。

② 中国では前科者による凶悪犯罪が相次いでおり、去る8月5日には、河北省石家庄市の刑務所で20年服役して2020年に出所した男が、同刑務所付近で刑務官を襲撃して2人を刺殺、1人に負傷させる事件が起きている。

【フィリピン】

☆ マニラ首都圏で公道レースの摘発強化

国家警察ハイウェイパトロール局（HPG）は8月14日（日）、マニラ首都圏と近隣地域の市街地で最近、暴走族による違法なドラッグレース（直線コース上で急発進して先着を競う短距離レース）が頻繁に行われ、地域住民から苦情が相次いでいることに関して、「断固とした取締りを行う」と表明した。

クリフォード・ガイラノッドHPG局長（警察准将）が地元メディアに語ったところによると、ケソン市内を南北にほぼ直線に走るミンダナオ・アベニュー・エクステンション（片側4車線～5車線）では深夜～午前4時頃にレースが行われ、取締りの重点地域になっている。

取締りの所管機関はケソン市警察（QCPD）であるため、HPGはQCPDを支援して公道レースに興じる若者らを根こそぎ逮捕する方針を固めた。沿道を管轄するQCDP第16署は、「今後は毎晩署員を配置してレースを阻止する」としている。

【JSSコメント】
① 沿道の住民らによると、週に1、2回は大規模なドラッグレースが行われ、交通事故の危険性が高まるだけでなく、エンジンの爆音による騒音被害も深刻である。
② フィリピンは国民の年齢中央値が24.1歳、うち男性は23.6歳（2020年推計）と非常に若いだけに、暴走行為を好む血気盛んな若者も必然的に多い。無用のトラブルを避けるためにも深夜の走行を避け、暴走集団を見かけたら進路変更するなどして極力接近しない方がよい。

【ベトナム】

☆ ホーチミン市公安局がデモ対応の機動隊を発足

ホーチミン市公安局は8月10日（水）、新たなプロジェクトとして抗議行動を取り締まるための機動隊を発足すると発表した。

機動隊の任務は、社会の混乱を起こす違法なデモの防止と抑制、党や国家による重要な政治的行事の警備、長期休暇期間の秩序の維持、政治的安定・社会秩序の確保、救援活動の実施などだとしている。

【JSSコメント】
① デモ対応を主要任務とする機動隊の発足は、ベトナム社会における不満の高まりや、それに伴う抗議行動の活発化を反映していると言える。
② 地元弁護士は「ベトナムでは抗議権が保証されているが、抗議デモに関連する法整備が整っていないので、抗議デモが合法か違法かを法的に判断できない。機動隊が抗議デモを取り締まるのは違憲に当たる可能性がある」と問題提起している。

【カンボジア】

☆ 交通当局が来年初めから交通違反点数制度開始を発表

カンボジア国家交通安全委員会（NRSC）は8月9日（火）、多発する交通事故の抑制策として「交通違反点数制度」を来年1月1日から開始すると発表した。

同制度は道路交通法第43条および第44条に基づいており、これまで手作業で行っていた運転者の違反記録や罰金の徴収などに電子機器を導入して簡略化する狙いがある。

日本と同様に減点方式が採用され、全ての運転免許には持ち点12点が与えられる。違反者はシートベルト非着用、スピード違反、飲酒運転、過積載などのカテゴリーに応じて減点され、持ち点が0点になった時点で免許を取り消されるが、免停措置はない。

再び運転したければ、運転教習を受けて新しい免許証を取得する必要がある。

罰金に関する制度変更はなく、軽微な違反の場合は罰金のみが科される。

NRSCは、「同制度を周知するため9月1日（木）から全国で試験的に開始し、来年までに運用上の問題点などを改善していきたい」としている。

【JSSコメント】
① 今年上半期に同国で発生した交通事故は前年同期比27.6%増の1,609件に上り、それによる死者は942人、重軽傷者は2,235人であった。交通事故の増加を受けて交通警察が取締りを強化しているが、依然として飲酒運転などによる交通事故が首都プノンペンを中心に多発している。
② 新制度開始を機に、雇用している現地人運転手に対して交通法規遵守の徹底を改めて指示することをお勧めする。

【タイ】

☆ バンコク西部の金行で70歳の男による拳銃強盗

8月11日（木）午後0時20分頃、バンコク西部バンケー区にある貴金属店（金行）「ヤワラート・エム・ゴールド」に拳銃を持った高齢の男が押し入り、店員を脅して金製ネックレス30本（一部報道では17本）、25万バーツ（約94万円）相当を強奪して逃走した。

店員らによると、男は黒ずくめの服に医療用マスクを着用して入店し、拳銃を突きつけてショーケース内の金製ネックレスを出させ、持参のバッグに詰め込んで逃げようとした。しかし、その時点で店員が出入口をロックしていたため男はパニックに陥り、体当たりでドアの分厚いガラスを破ろうとして何度も転倒した。

怒った男は拳銃を発砲してドアガラスを破壊したが、今度は割れたガラスで足を滑らせて転倒し、ふらふらになって逃げて行った。

現場を管轄するラックソン警察署の署員が現場に急行し、現場近くの廃ビル内に潜んでいた男（70歳：年金生活者）を発見、逮捕した。

【JSSコメント】
① 銃社会の側面を持つタイでは、本件のような拳銃強盗が少なくない。また、金行は高価で換金性の高いネックレスなどを客が間近で確認できる状態で営業せざるを得ず、警備強化に限界があることなどから、各地で強盗被害が頻発している。
② 金相場が高騰している昨今、きらびやかな金製品を身に着けていると強窃盗被害のリスクが大幅に高まることにも留意する必要がある。

【マレーシア】

☆ クランタン州のタイ国境で密輸用桟橋40か所を確認

北部クランタン州警察のムハマド・ザキ・ハルン本部長代行は8月14日（日）、「隣国タイとの国境を流れるコロク川の河岸には、国際的な麻薬組織や人身売買組織などが両国間を密かに往来するために使用している可能性が高い桟橋が少なくとも40か所ある」と発表した。

これらの桟橋は、パシール・マス郡が19か所と最多で、トゥンパット郡（17か所）、タナメラ郡（3か所）、ジュリ郡（1か所）でもそれぞれ確認されている。

ザキ本部長代行によると、タイからこれらの桟橋を通じて大量の各種麻薬類が同州に密輸入されているほか、最近では人身売買組織がミャンマー人などの不法移民をマレーシアに密入国させるケースも急増している。

同本部長代行は最近、各桟橋周辺に立ち並ぶ店舗を視察した。それらの店舗は密輸品の保管・中継拠点になっていると見られるが、決定的な証拠がないため強制捜査できずにいるという。

【JSSコメント】

① トゥンパット郡ニボン地区ケリの桟橋では最近、タイから不法入国を図ったミャンマー人計30人と、案内役を務めていた人身売買組織メンバーのマレーシア人の男が逮捕されている。

② タイ最南部ではイスラム過激派が治安関係者を標的とした銃撃などのテロを多発させているが、それらのメンバーがコロク川の桟橋を利用して両国間を往来している可能性もあることから、同州警察はテロ対策の観点からも監視を強化している。

☆ ジョホールバルで女性のひったくり被害続発

ジョホール州の州都ジョホールバル市の警察は8月10日（水）、ひったくり常習犯の男（27歳）を市内で逮捕した。

男は4日午後2時頃に市北東部のタマンジョホールジャヤ地区で、歩いていた女性（62歳）に背後からバイクで近づいてバッグをひったくり、その際に女性は転倒して右肩を負傷していた。バッグには身分証明書、クレジットカード、現金100リンギット（約3,000円）、携帯電話、自宅の鍵などが入っていた。警察は目撃証言などから容疑者を特定し、奪われたバッグなどを取り戻した。

男は、他にも同地区や市中心部のタマンペランギ地区でひったくり3件に関与したことを自供している。

8月9日（火）午前9時頃には、同市タマンセントサ地区にあるショッピングモール「ショップロット」付近の路上で、友人と歩いていた女性（47歳）がバイクの男（26歳）にショルダーバッグをひったくられた。

警察は翌10日、犯行現場から約10kmの距離にあるモレック通りで男を逮捕するとともに、関係先から盗品と見られる携帯電話4台、バッグ1個などを押収した。

この男も市内でひったくりを繰り返していた。

【JSSコメント】

① この種の犯罪は女性の被害が圧倒的に多いものの、男性が狙われるケースもあるので、そうした被害が発生しかねない場所を不用意に歩かない方がよい。

② 万一ひったくりに遭った場合、バッグ等にしがみつくと引き倒されて重傷を負う危険性が高く、場合によっては頭部を地面に強打して死亡する場合もあるので、潔く諦めてすぐに荷物から手を離さなくてはならない。また、バッグの肩紐をたすき掛けにするなどして身体に固定するのは避け、車道の反対側の肩にバッグを掛けて、近づいてくるバイク

等の気配に警戒しながら歩くべきである。

【インドネシア】

☆ ジャカルタの警察官射殺事件で警察少将ら4人を逮捕

国家警察機動隊「ブリモブ」の特別捜査本部は8月11日（木）、南ジャカルタにあるフェルディ・サムボ警察少将の官舎で7月8日に同少将の警護官（27歳、警察先任曹長）が射殺された事件について、同少将、別の警護官を含む警察曹長2人、民間人の男の計4人を容疑者として逮捕したと発表した。

同少将と曹長の1人は刑法338条（計画殺人）違反など複数の容疑に問われ、その他の2人も犯行を幇助した容疑を掛けられている。前者2人には有罪判決が出れば極刑が科せられる可能性がある。

国家警察刑事局は同事件を発生の3日後に公表したが、当初は、先任曹長が少将の妻の部屋に猥褻目的で侵入したのを曹長が阻止しようとしたところ、先任曹長が先に発砲してきたので止むを得ず応戦して射殺した、としていた。

しかしその後、国家人権委員会（Komnas HAM）が調査に乗り出し、ブリモブが改めて捜査した結果、同事件は少将と曹長による計画殺人であったことが判明した。

先任曹長は暴行を加えられた上で曹長に銃撃され、少将にもとどめの銃弾2発を後頭部に撃ち込まれた。その後、2人は銃撃戦があったかのように見せかけるため、先任曹長の拳銃を部屋の壁に向けて何発も発砲し、現場周辺の監視カメラを取り外して隠蔽していた。また、遺族らが警察の制止を振り切って棺を開けたところ、遺体の顔面を刃物で切り刻んだような複数の傷や、指の骨を砕いたり爪を剥がしたような激しい拷問の痕があったという。

Komnas HAMのアフマド・タウファン・ダマニク委員長は8月12日（金）、フェルディ少将が犯行を自供していることを明らかにした。また、調査報道に定評がある週刊誌「テンポ」は8月5日、曹長による長文の「告白」を掲載した。

同事件の真相は、現場検証からの証拠や遺体の司法解剖などで当初から判明していた筈であるが、刑事局は、国家警察内でのフェルディ少将の権勢による圧力を受け、当初の虚偽発表に固執したものと見られている。

同事件は犯行動機など未解明の部分が多く、捜査当局は容疑者4人に対する取調べを通じて解明する方針であるが、地元メディアは、同少将が妻と先任曹長の不倫関係を疑い、嫉妬に狂って犯行に及んだとの見方を報じている。

【JSSコメント】

① リスティヨ・シギット・プラボウォ国家警察長官（警察大将）は8月9日（火）の記者会見で、同事件の捜査に携わった警察官少なくとも31人が、調書の不正記載や証拠捏造な

どの容疑で懲戒処分に付されたことを明らかにしている。
② 事件が大きく報じられたこともあって、ジョコ・ウィドド（通称ジョコウィ）大統領は「いかなる隠蔽も認めず徹底して真相を明らかにせよ」とリスティヨ長官に命じていた。今回の事件で警察内の隠蔽体質が改めて露呈し、信用が大きく失墜したことは否めない。

【インド】

☆ カルナタカ州中部でヒンズー教徒とイスラム教徒が衝突

8月15日（月）、カルナタカ州中部シヴァモッガ県のアミール・アーマド・サークルでヒンズー教徒とイスラム教徒が衝突し、警察が出動して鎮圧に当たる騒ぎとなった。

事の発端は、インド独立記念日を祝うために掲げられていた20世紀の政治家ヴィナヤク・ダモダル・サヴァルカルのポスターをイスラム教徒のグループが取り外し、反英闘争に生涯を捧げた18世紀のマイソール王ティプ・スルタンのポスターに替えようとしたことであった。イスラム教徒側は、ヒンズー至上主義者として知られたサヴァルカルは自由の戦士ではないとして、独立記念日の装飾に相応しくないと抗議していた。

警察は警棒を駆使して群衆を解散させたが、その後、「世界ヒンズー協会（VHP）」や「バジラン・ダル」などのヒンズー至上主義団体の活動員らが現場に集まって抗議デモを開始したことから、事態悪化を防ぐため集会禁止令を発した。

一連の騒動の中で若者が刺されて負傷する事件が2件続発し、シヴァモッガ市内の学校は翌16日に休校となったほか、商業施設なども休業した。

地元では、8月13日（土）にもサヴァルカルのポスターが破られ、それに対する報復としてヒンズー右派団体が州都ベンガルールでティプ・スルタンのポスターを破り、その動画をインターネットで公開したことから緊張が高まっていた。

【JSSコメント】
① シヴァモッガ県ではこの種の暴力事件が相次いでおり、2月には「バジラン・ダル」のメンバーがイスラム教徒4人組に殺害され、翌日の葬儀に参列したヒンズー教徒数千人がイスラム教徒居住地域を襲撃して放火や破壊行為に及んだ。5月には「インド人民党（BJP）」幹部の友人の車とイスラム教徒の2人乗りバイクが衝突事故を起こして暴力沙汰になったことを切っ掛けに、ヒンズー教徒によるイスラム教徒襲撃事件が続発した。
② カルナタカ州で両教徒の反目が強まったのは、昨年7月にBJPのバサヴァラジ・ボンマイ州首相が就任してからだとされる。同州では来年5月に州議会選挙が行われることから、選挙に向けて両教徒間の暴力が今後一層激化するおそれがある。

【スリランカ】

☆ コロンボ中心部の座り込み抗議者らが退去

財政破綻したスリランカでは、抗議デモ激化によるラジャパクサ政権崩壊後も、

最大都市コロンボ中心部の海浜緑地「ゴール・フェイス・グリーン」で「住人」と呼ばれる強硬派の抗議者らがテントを張って座り込みを続けてきたが、その彼らも8月10日（水）頃から同地を退去しつつある。

警察が座り込みの抗議者らに対して強制排除も辞さないと最後通告したため、やむを得ず退去に応じているものと見られる。

抗議者らは、強制退去命令に対する意義申し立てを取り下げたが、一方で「今後も抗議行動は継続する」と強調している。

【JSSコメント】

① 全国の大学の教員組織で構成される「大学教員連盟（FUTA）」は8月9日（火）、政府がデモ弾圧を強めていることを批判し、反体制派市民を不当に身柄拘束する「魔女狩り」を直ちに止め、最優先でやるべき経済の立て直しに注力するよう求めた。

② コロンボにおける反体制デモは下火になっているものの、燃料・食料品・医薬品などが不足している状況に変わりはないため、小規模な抗議行動は各地で継続されており、騒動再発の危険性は去っていない。

【パキスタン】

☆ イスラマバードで武装強盗など28件続発、1人死亡

8月16日（火）に首都イスラマバードで店舗に対する拳銃強盗が発生し、抵抗した男性が撃たれて死亡した。

同日、市西郊のイスラマバード国際空港付近では車で移動中の男性ら3人が強盗団に行く手を遮られ、現金17万6,700ルピー（1ルピー＝約0.6円）や携帯電話などが奪われた。また、南郊のチャッタ・バクタワール地区（市中心部の南東約10km）では、薬局に対する拳銃強盗で現金8万ルピーが奪われた。

市中心部のG-6/3地区では住宅に拳銃強盗が押し入り、現金8万5,000ルピーや5万ルピー相当の貴金属などを強奪した。

同市における同日の犯罪被害は、空き巣や車両盗なども含めると28件に上った。

【JSSコメント】

① イスラマバードでは、犯罪の多くが「ゼロポイント」と呼ばれる交差点よりも南側、および西側の地域で発生しているが、今回のように市中心部の外国人も多い高級住宅地G-6地区でも被害が発生している。

② 万一強盗に武器を突きつけられたら、自分の身の安全を最優先して絶対に抵抗せず、急な動作で犯人を刺激しないよう注意しながら、要求どおり金品を差し出さなければならない。また、運転手や同乗者などがいる場合は「抵抗するな、言うなりになろう」と呼びかけることも重要である。

以上

本レポート内容の全部または一部の転送・転載・第三者への提供を厳禁します。